

令和2年度授業改善推進プラン

- (取り組み内容)
- ・毎学期の終わり、自分の担当(各学年ごとに項目だてて)の授業に関して作成する。
 - ・本年度の自己の研修課題に関連し、自己の授業を分析し課題を見いだす。
 - ・見いだされた課題に対し改善プランを立て、指導方法の工夫・改善を図る。
 - ・学期の終わりに検証を行い、来学期につなげていく。

教科名(美術) 教科担任名 高橋 菜美子

★教科・観点について

期末テスト及び学期の学習状況、生徒の授業アンケートをもとに分析し記入する。<○成果 ▲課題>

観点	1学期			2学期		
	学年	課題分析	具体的な改善策	学年	課題分析(授業改善・プランの1次評価)	2学期終了後の具体的な改善策
美術への関心 意欲・態度	1年	○授業規律を守って学習に取り組むことができる。 ▲基礎的な知識や理解力が乏しい。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が意欲的に取り組める題材の設定、導入の工夫をする。 ・個々の理解力や能力に合わせた説明や演示の工夫をする。 ・安心して学習できる環境や場づくりをする。 	1年	○意欲的に取り組むことができる。 ▲必要のないおしやべりが多い。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学習や生活と関連付けて題材設定を行う。 ・生徒が安心して授業に参加できる環境・場づくり。
	2年	○課題に関心をもち落ち着いて学習することができる。 ▲忘れ物や提出物にルーズなところが一部見られる。		2年	○落ち着いて取り組むことができる。 ▲忘れ物・提出物にルーズなところがある。	
	3年	○自分で目標をもって取り組むことができる。 ▲集中力にムラがあり、諦めたり半端な取り組みになることがある。		3年	○意欲的に取り組むことができる。 ▲忘れ物・提出物にルーズなところがある。	
発想や構想の能力	1年	○自分のアイデアを出そうと一生懸命取り組むことができる。 ▲アイデアの出しが乏しい。	<ul style="list-style-type: none"> ・アイデアの広げ方、出し方を例示する。 ・多様な見方や捉え方を認め、挑戦する場や時間の保証をする。 	1年	○資料を活用してアイデアを出すことができる。 ▲アイデアを深めることが苦手。	<ul style="list-style-type: none"> ・クロームブックを活用して資料の充実を図る。 ・選択できる方法、材料などの設定の工夫。
	2年	○自分の好きなことや関心のあることから発想を広げることができる。 ▲自分のできる範囲で納得し、新しいことにチャレンジできない。		2年	○自分の興味関心からアイデアを出すことができる。 ▲新しい挑戦が苦手。	
	3年	○自分の思いやアイデアを大切にアイデアを考へたり深めようとしたりする姿がみられる。 ▲心身の状態や周囲の様子に左右されることが多い。		3年	○資料を活用したり友人との会話からアイデアを出すことができる。 ▲その時の気分などで見切り発進してしまうことがある。	
創造的な技能	1年	○基本的な用具の扱いなどは理解して進めることができる。 ▲新たな工夫やチャレンジすることができない。	<ul style="list-style-type: none"> ・材料や用具の扱いでは演示、掲示物、ICTなどを使い分け、生徒に合った説明の工夫をする。 ・生徒が自分の目標や完成イメージをもてるように、段階的な作品参考例などを提示する。 ・個々の能力に応じて材料や用具を選択させ、安心して活動できる時間や場を保障する。 	1年	○基本を理解してそのルールや方法を守ることができる。 ▲新たな工夫ややり方を見つけることが苦手。	<ul style="list-style-type: none"> ・材料・用具の選択、試す時間などを保証する。 ・計画的に進めるための具体的な手順、方法をより具体的に示す。
	2年	○材料や道具の扱いを理解し、見通しをもって表すこと、活動することができる。 ▲用具の扱いや進度に個人差があり個別の支援を要する生徒がいる。		2年	○基本的な用具・材料の扱いに慣れてきた。 ▲新しい工夫や改善点を見出すことが苦手。	
	3年	○自身の経験などから材料や用具の扱いに見通しをもって表すことができる。 ▲効率的な進め方や工夫が苦手である。		3年	○今まで経験したことを活かして活動することができる。 ▲計画的な作業が苦手。	
鑑賞の能力	1年	○友人の作品や活動にも関心をもって学習できる。 ▲造形的なもの、感じ方の学習経験が少なく、そうした学習を積み重ねることが必要である。	<ul style="list-style-type: none"> ・他学年の活動や作品にも目が届くようにし、見る楽しさを体感させていく。 ・語彙力や表現力のバリエーションを習得させ活用できるようにする。 ・授業で扱う題材や材料・用具が生活の中でどのように存在しているのか、どのような関わりがあるのかを伝えていく。 	1年	○友人の作品や活動に関心をもち楽しく見ることができる。 ▲見方や感じ方に深まりや広がりが少ない。	<ul style="list-style-type: none"> ・造形的な見方、捉え方の視点を与える。 ・見たこと、感じたことを伝えたいくなる、共有したくなる友人関係や場の構築。
	2年	○友人の作品にも関心をもち、認めたり意見を伝え合ったりすることができる。 ▲感じたことや気付いたことを深めることが苦手である。		2年	○友人や他学年の作品に関心をもち楽しむことができる。 ▲見たこと感じたことを深めることができない。	
	3年	○様々な作品に関心をもち、自分の感じたことや作品の良さや面白さを大切にすることができる。 ▲気付いたり感じたことを進んで話し合ったり発表することに抵抗がある生徒が多い。		3年	○様々な作品に関心をもち楽しく見ることができる。 ▲見たこと感じたことを自分の制作に活かしたり深めることができない。	
授業改善の検証方法	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の様子 ・振り返りカード ・作品 ・定期テスト ・対話 			<ul style="list-style-type: none"> ・活動の様子 ・振り返りカード ・作品 ・定期テスト ・対話 		
研修課題(キャリア教育に関連した教科としての取組)	研修課題に対する教科としての具体的な実践方法	1学期の成果と課題	1学期の結果を踏まえた具体的な実践方法及び追加内容	2学期までの成果と課題	1年間の成果と今後の課題	
学んだことを自身の学習や生活に活用する。	生徒の学習や生活につながる題材の設定をすること、材料や用具の経験を積ませることに取り組む。	○生徒が関心をもてる題材設定を行うことができた。 ▲一部の生徒には集中力や目標設定において課題もあるため、継続的な指導が必要である。	生徒の生活や身の回りのことと関連付けて導入や指導の工夫。	○生徒の生活や関心のあることと題材を関連付けて授業改善に努めることができた。 ▲生徒自ら工夫や手立てを考える、挑戦する態度を育てる必要がある。		